

## 全国情勢 花き産地の育成

### ～ブランド化と消費拡大～

和歌山県経営支援課 主任 山本 香珠代

#### はじめに

近年、国内の花き生産は、需要の落ち込みや生産コストの上昇、生産者の減少等を背景に、産出額、栽培面積とも減少傾向にあります。(図 1)

このような状況の中、競争力の高い産地づくりを目標に、全国で高度環境制御技術を活用した次世代園芸施設の導入や産地間連携によるリレー出荷、輸出の拡大など生産性の向上と需要拡大に向けた様々な取組がなされています。

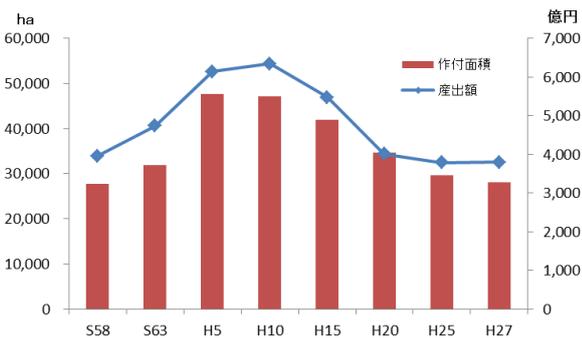


図1 花きの産出額と作付面積の推移

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、「花木等生産状況」

今回は、全国の事例(※)をもとに花き振興に向けた特徴的な取組について紹介します。

和歌山県でもスターチス等でオリジナル品種の開発を進めていますが、全国的にもオリジナル品種の育成は盛んで、他産地との差別化を図り、産地の安定化や拡大につながる動きが多くみられます。

石川県では、フリージアでオリジナル品種を育成し、カラーバリエーション化(7色10品種)に成功しました。バラエティーに富んだ花色で新たな需要が期待できる上、

「旅立ちを祝う花」のキャッチフレーズで卒業式等用途の拡大による利用促進も狙っています。

島根県では、アジサイ(鉢物)でオリジナル品種「銀河」や「万華鏡」を開発しています。花色が独特で美しく、ジャパンセレクションでグランプリを受賞する等様々な賞で最高位に輝き、その地位を確立しています。高品質生産を維持するため、厳しい出荷規格を設け、規格外は出荷しない等検査を徹底しています。また、新規就農者には試作期間を設ける等、技術の高位平準化も進めています。

自生植物で有利販売につなげた産地も多く、群馬県では、市場や生花店を対象に開催した産地見学会で自生植物が注目され、営利販売につなげた事例もありました。

他にも、秋田県は、米に偏重した農業構造を複合型に転換するため、周年農業可能な園芸団地の整備を進めています。予算や農地の確保等課題も多いようですが、園芸産出額を着実に伸ばしています。

宮崎県では品目、生産者を限定し、価格設定型生産の導入を進めるなど、全国で産地の個性を生かした取組がなされています。

#### おわりに

生産振興には担い手の確保と育成が不可欠です。今後、生産者不足が深刻化する中、雇用も含めた労働力の確保は大きな課題といえます。

今回、紹介した産地の多くが、研修制度の充実やIターン者の就農促進など担い手対策とともに産地の育成に取り組んでいます。

(※)全国花き担当普及指導員調査研究会都道府県報告から引用